

光が丘デジタルアーカイブ 活動計画2023

光が丘歴史博物館研究会 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 菅原みどり

「光が丘」の地域資料を収集・公開する意味は？

<https://drive.google.com/file/d/1xKqJmoYyYqw3g-xH8QcDGHZaRgtJx7P/view?usp=sharing>

紹介動画を制作。(他のバージョンも)

※動画は練馬区立区民協働交流センター主催「練馬つながるフェスタ2022」内の企画「つながる動画2022」で公開。動画の効果は大きい。



東京都練馬区「光が丘」とは

江戸時代以前 → 「畑」、「野」の表記

1871(明治4)年 → 田柄用水の完成、稲作

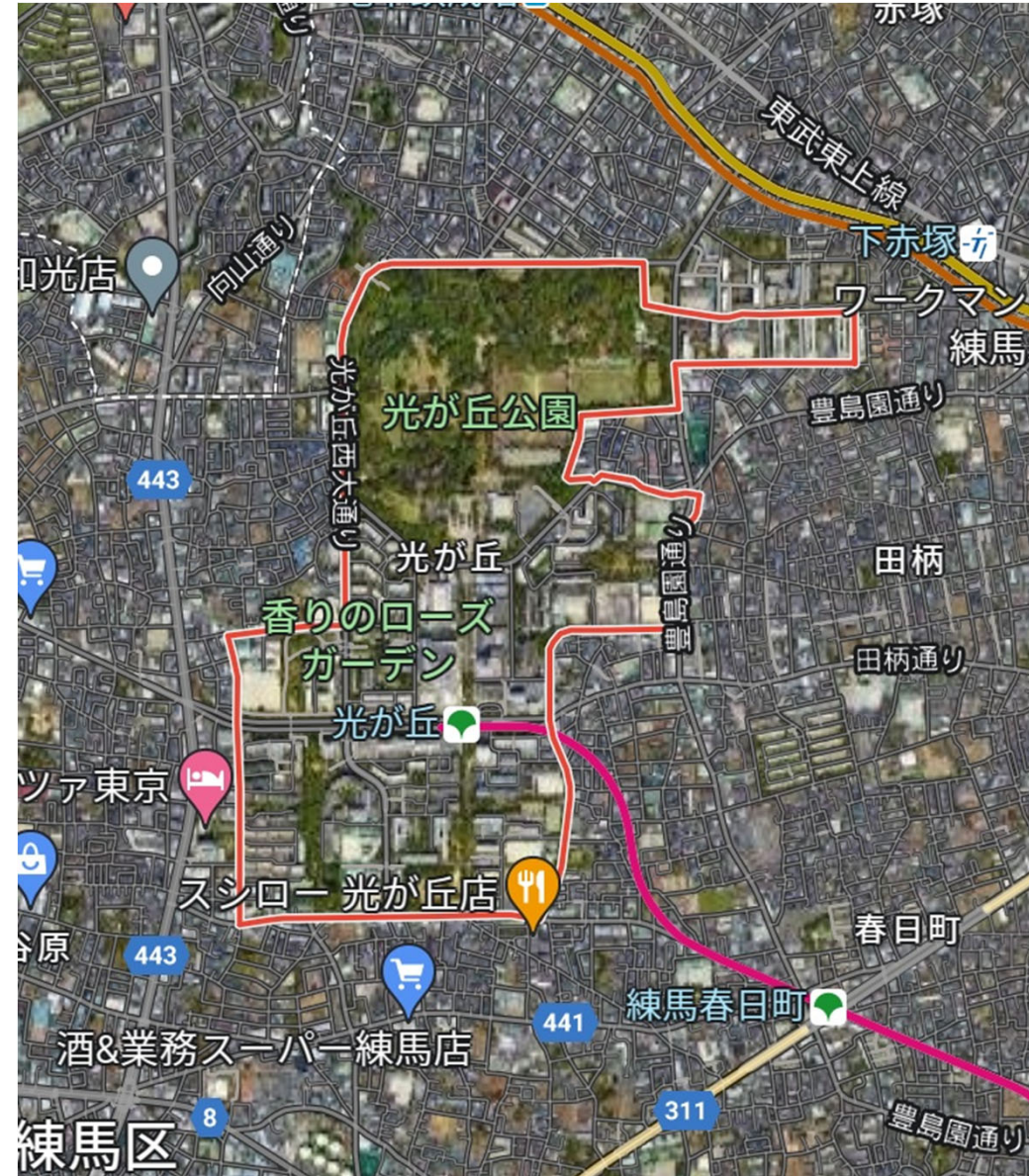
1943(昭和18)年 → 成増飛行場完成

1948(昭和23)年 → グラントハイツ完成

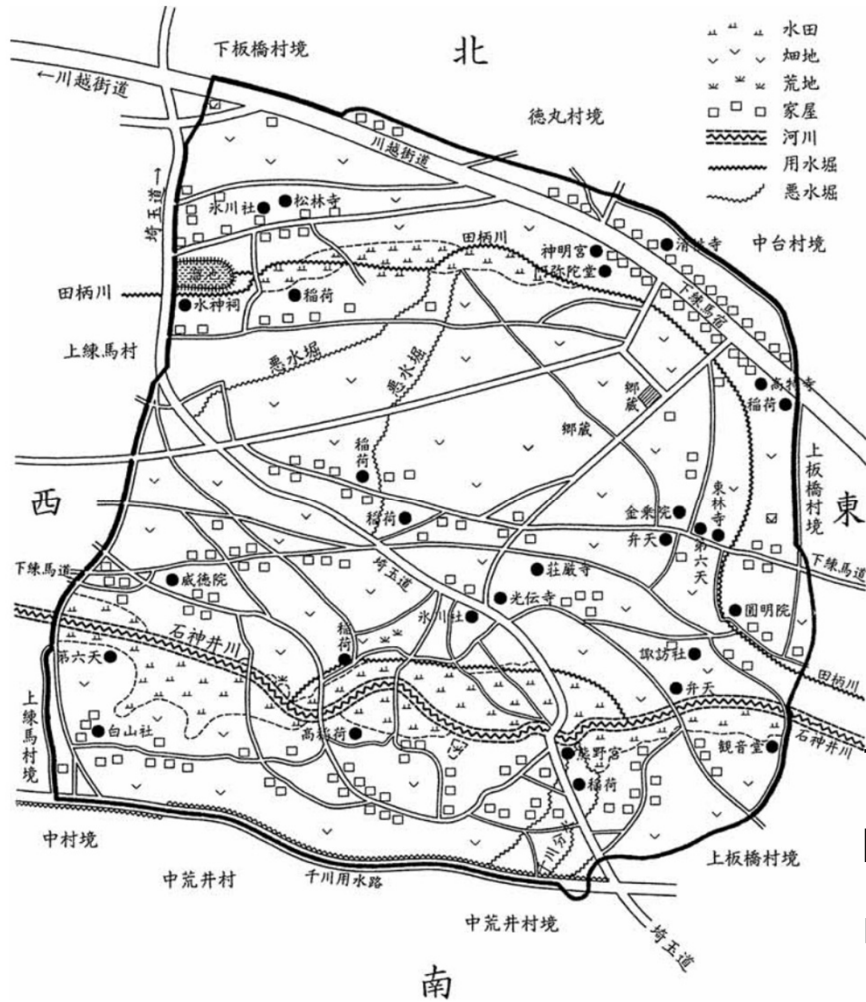
1973(昭和48)年 → グラントハイツ全面返還

1983(昭和58)年 → 光が丘地区入居開始

→ 団地と公園のまち、築約40年経過



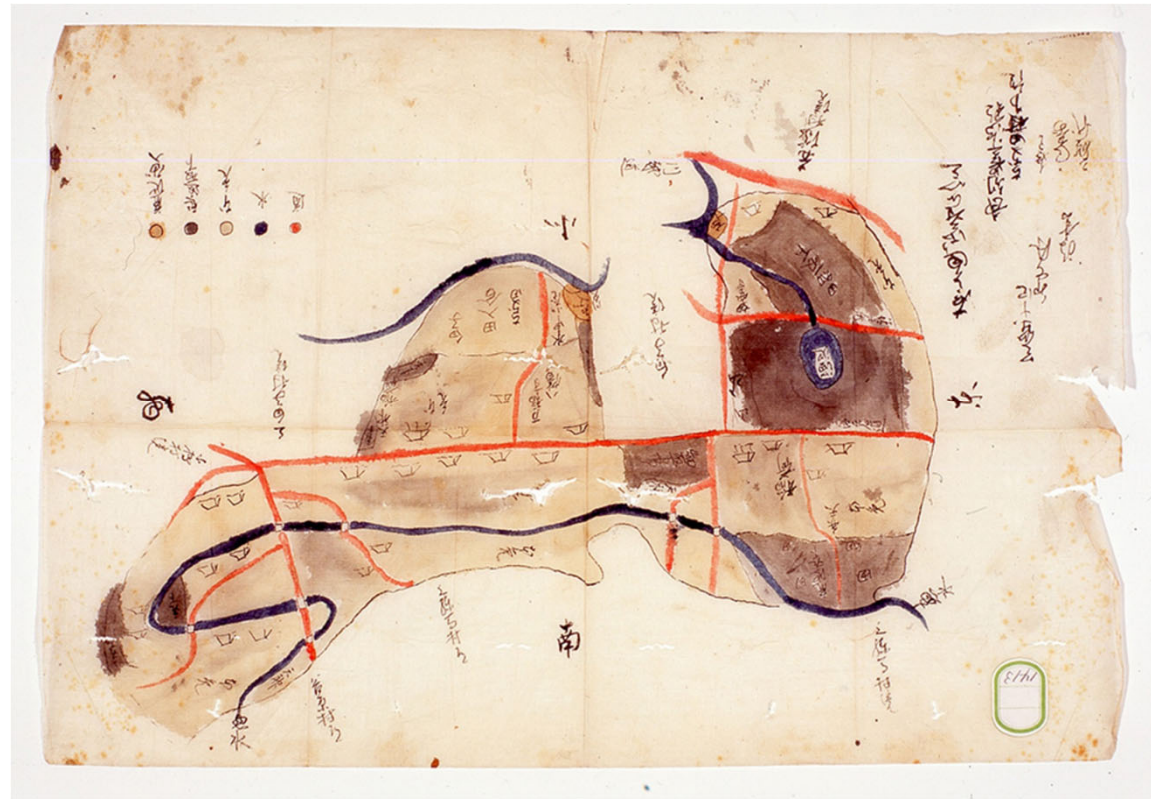
江戸・明治の光が丘



下練馬村下組絵図(翻案図)

『改訂増補 光が丘の地歴図集』

山之内 光治 2007年



土支田村下組絵図(1833・天保4年)

「小島家文書絵図」

練馬区立石神井公園ふるさと文化館



「成増飛行場」 1944(昭和19)年 練馬区

成増飛行場・グラントハイツ

「グラントハイツ」 撮影時期不明 練馬区



「光が丘」の完成まで



1980年頃 国土地理院



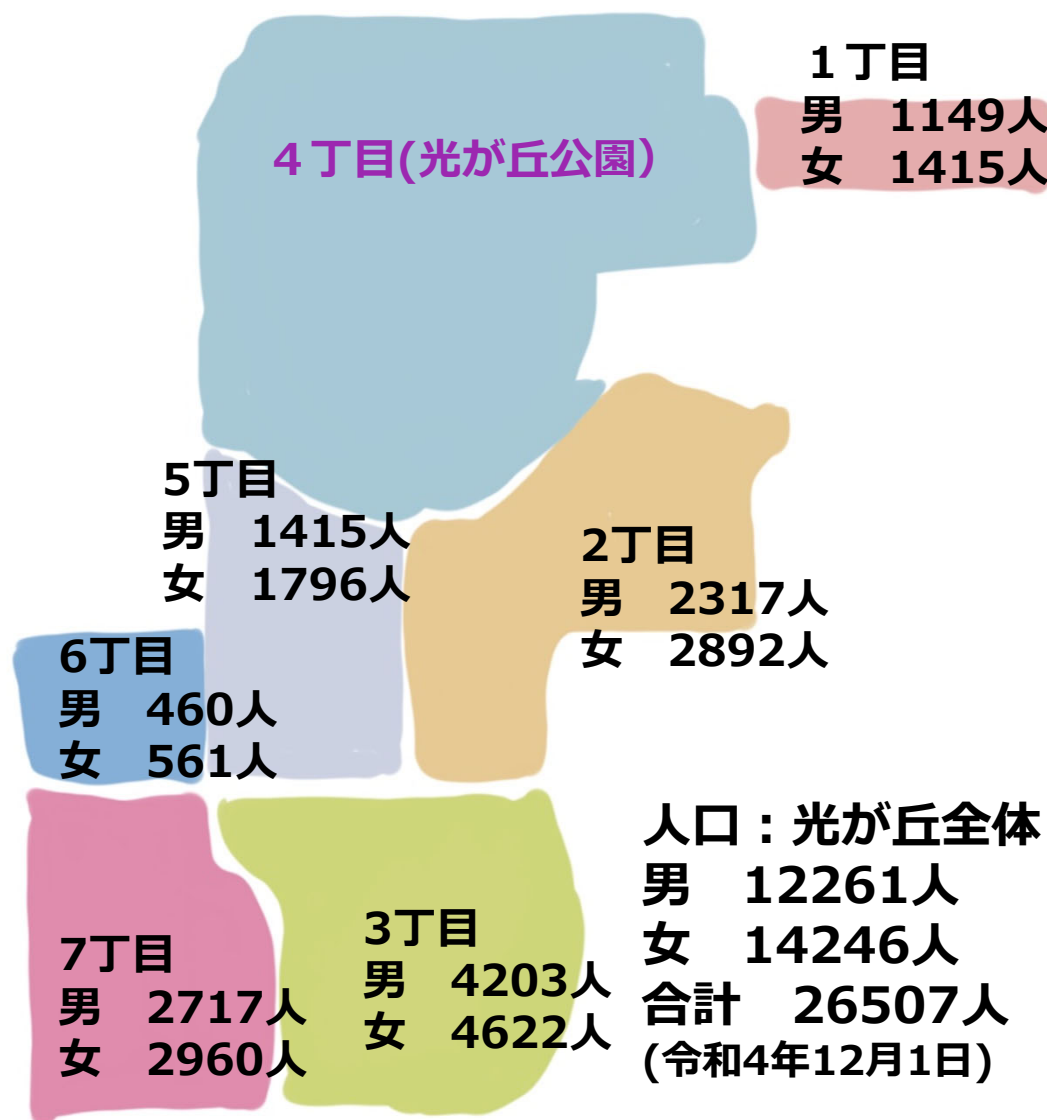
1985年頃 国土地理院

現在の「光が丘」

地域全体が今後また大きく変化する可能性

■ 光が丘パークタウン(光が丘団地)

- ・ 12700戸、26500人が住む
- ・ 1983～1992年に光が丘パークタウン入居完了
→築約30～40年、新耐震基準を満たしている
- ・ 大規模修繕工事など(外壁の色変更ほか)
- ・ 病院、清掃工場は老朽化等により建替え、移転



「光が丘デジタルアーカイブ」のきっかけ

①歴史的に特異性のある光が丘地域

→農地～特攻隊の飛行場～米軍家族宿舎～公園と団地と商業地の現在

②団地の建物老朽化等により、地域全体が今後また大きく変化する可能性

→12,000戸の共同住宅、軒並み築35～40年

③地域住民が光が丘の歴史を知る機会が少ない

→団地完成後に移り住んだ人が中心、高齢化、学校教育など

光が丘歴史博物研究会の活動・研究